

「薬物、だめ、絶対。」

岡山県倉敷市立味野中学校 3年 ^{かねた} 兼田 くるみ



昨今、有名大学での薬物使用が大きなニュースとなっています。そのニュースを初めて聞いた時、正直な意見ですが、「またか」という感覚を持ったのを覚えています。しかし、よく考えてみると、薬物というものに対して、慣れのようなものを感じる自分に、少し恐怖を感じました。そこで、今回は薬物についての作文を書くことにしました。

一つ、疑問が浮かびました。そもそも、なぜ、薬物はだめなのでしょう。病気になると薬も飲むし、普通の薬と薬物、何が違うのでしょうか。私なりに調べてみました。

一瞬の気のゆるみや、誘惑で薬物を使用すると、一生と言っていい程、薬物に悩まされるそうです。まず、薬物の依存性は大変、恐ろしい強さを持っています。脳へと入り込み、脳が、薬物がないと生きていけない様な錯覚を起こします。それによって、どんどん摂取する回数が増え、摂取する量も増えてしまうそうです。その薬物の毒性は、脳のみならず、内臓にも危害を与えるそうです。そして最終的に脳も内臓も薬物の浸透により、正常に働かなくなり、死に至ることもあるそうです。そして、薬物乱用による恐ろしさは、乱用した本人のみに終わらない事が多いそうです。薬物は恐ろしいだけでなく、とても高価な物だそうです。その薬物を必死に手に入れる為に、窃盗、強盗、売春、さらには殺人などの犯罪を誘発する事も少なくありません。家庭の崩壊、社会秩序の破壊にもつながることになってしまいます。薬物について調べていくうちに、本当に薬物は恐ろしいもので、どんな事があっても、絶対に手を出してはいけないと思いました。では、なぜ薬物に手を出してしまうのでしょうか。

みんな、薬物がダメだということは知っているはずですが。なのに、なぜ薬物を使用してしまうのでしょうか。私にはわからないので家族で話し合ってみました。

父と母の話によると、薬物を使用する人は弱いのではないのでしょうか。弱いという表現が合っているのか難しいところですが……時に人間は涙を流しても耐えられない程の悲しみや、逃げたくなる程の苦しみを感じる事があります。そんな時、普通は、親しい友人や家族に相談したり、支えてもらうのではないのでしょうか。しかし、そんな時、誰もいなかったり、誰にも話せなかったらどうなるのでしょうか。わらにもすがりたい時にきつと、自分を現実逃避させる手段として薬物を使用してしまうキッカケになっているのかもしれない。有名人は心が苦しくても、心療内科や専門的な病院に行きにくいそうです。世間の

目が恐く、自分の中で解決しようとする事が多いそうです。そんな時に、薬物の恐ろしさではなく、間違っただけの誘惑の話が流れてくるのでしょう。そして、ダメだとわかっているけどだまされて使用するキッカケになってしまう事が多いそうです。

また、私自身がびっくりしたのですが、薬物を使用するキッカケの中で多いのが、ちょっとした興味本意だそうです。一人では使用しませんが、仲の良い友人にすすめられたり、友人と一緒になら恐くないという間違っただけの環境もキッカケとなる事が多いそうです。

軽い気持ちで薬物に手を出してしまうのは、薬物の本当の恐ろしさを知らないからでしょう。なので、もっと薬物の恐ろしさを世の中の人々が知る事が大事なのではないでしょうか。単に、「だめ、絶対」と言っても、何がダメなのかわかりにくいです。あやまって摂取する事で、命を失う危険や、人生を狂わす犯罪を起こしてしまう危険性が自分にある事等を他人事ではなく、自分にも起こり得るという事実をもっともっと世の中に伝えてほしいと感じました。

今回、薬物について調べる事によって、私自身、どんな事があっても薬物に手を出してはいけないと、改めて認識しました。そして、重要な事は、薬物の本当の恐ろしさを、もっとリアルに世の中に発信していくこと。それによって犯罪、特に若者の犯罪は減るのではないのでしょうか。最も重要な事は、どんな事も打ち明けられる友人や家族を持つ事。本当の心の友人や支えがあれば、間違っただけの道を選ぶことはないでしょう。

「薬物、だめ、絶対。」